

平成 29 年度 在宅医療・介護連携推進事業
多職種連携研修会 ワールド・カフェ「緩和医療と在宅療養との連携」

◇日時：平成 30 年 2 月 14 日（水）19 時 00 分～21 時 00 分

◇場所：沖縄赤十字病院 3 階 会議室

◇目的

急性期病院と介護事業所等の課題に焦点をあて、「緩和医療と在宅療養との連携」をテーマに急性期病院の役割について考えながら、医療と介護で意見交換をワールド・カフェ方式のグループワークを実施。

◇参加者

沖縄赤十字病院：53 名

（医師 11 名、看護師 26 名、栄養士 1 名、薬剤師 2 名、理学療法士 5 名、言語聴覚士 1 名、MSW5 名、事務職 2 名）

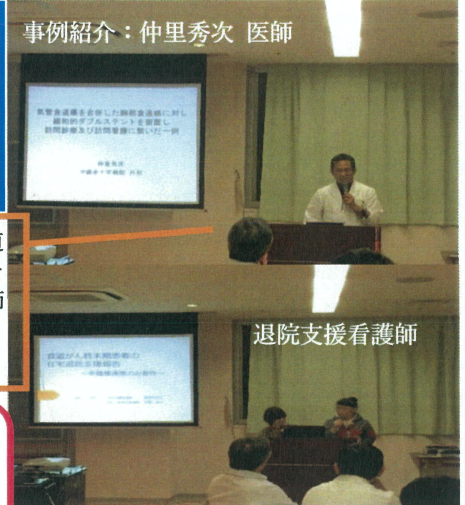
院外参加者：34 名

（訪問診療医 7 名、訪問看護師 7 名、訪問薬局 4 名、栄養士 1 名、理学療法士 1 名、言語聴覚士 1 名、作業療法士 1 名、介護支援専門員 9 名、社会福祉士 1 名、その他 2 名）



講話：喜納美津男 医師

沖縄赤十字病院 勤務医の先生方に在宅医療のイメージを持っていただくため、喜納美津男医師による『在宅医療の実例』をテーマに、在宅医療で実施されている医療行為や療養環境などの現状についての講話いただきました。

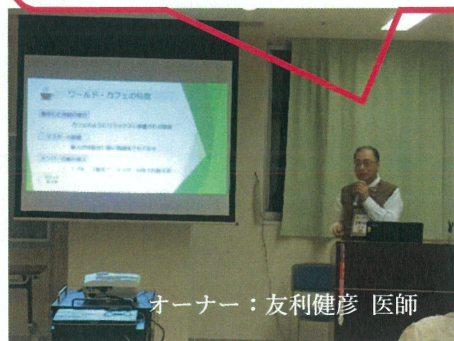


事例紹介：仲里秀次 医師

沖縄赤十字病院 仲里秀次医師による『食道がんターミナル期の在宅移行』の事例紹介をしていただきました。また、退院支援看護師からも在宅療養への移行に向けた取組みについてもお話がありました。

退院支援看護師

ワールド・カフェとは... アニータ・ブラウンとデイビット・アイザックスが 1995 年に開発・提唱した話し合いの手法。オープンに会話を行い、自由にネットワークを築くことで、知識や知恵の創発に繋げることが目的。



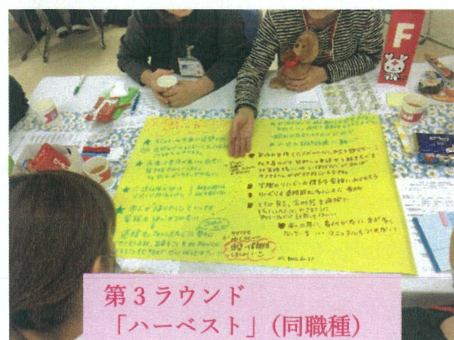
オーナー：友利健彦 医師



第1ラウンド
「問の探求」(同職種)



第2ラウンド
「アイデアを他花受粉」(多職種)



第3ラウンド
「ハーベスト」(同職種)



第4ラウンド
「シェアリング」(多職種)

多職種連携研修会ワールド・カフェ「緩和医療と在宅療養との連携」 来場者アンケート集計結果

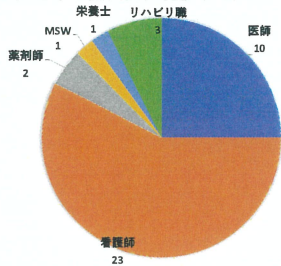
実施日：平成30年2月14日（水）

場 所：沖縄赤十字病院

参加者87名、アンケート回収69名、回収率79.3%

◇院内参加者職種

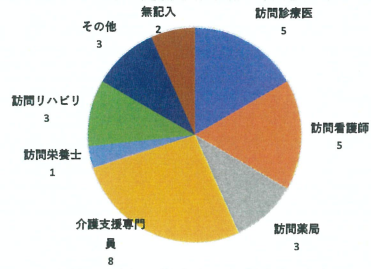
院内職種	人数
医師	10
看護師	23
薬剤師	2
MSW	1
栄養士	1
リハビリ職	3
その他	0
計	40



※職種の複数回答により、回答数と相違あり。

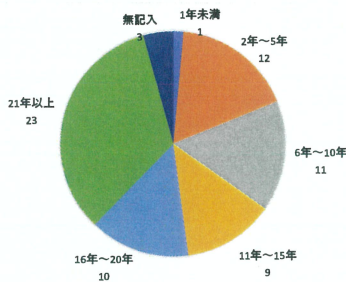
◇院外参加者職種

院外職種	人数
訪問診療医	5
訪問看護師	5
訪問薬局	3
介護支援専門員	8
訪問栄養士	1
訪問リハビリ	3
その他	3
無記入	2
計	30



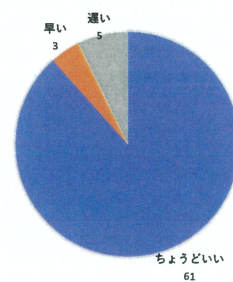
◇経験年数

経験年数	人数
1年未満	1
2年～5年	12
6年～10年	11
11年～15年	9
16年～20年	10
21年以上	23
無記入	3
計	69



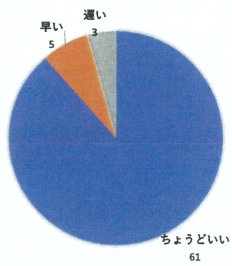
1. 開始時間について

選択肢	人数
ちょうどいい	61
早い	3
遅い	5
その他	0
計	69



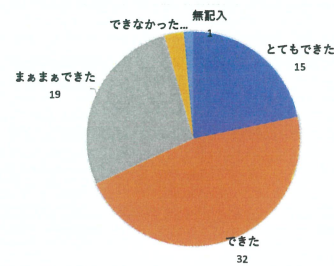
2. 研修会全体の時間について

選択肢	人数
ちょうどいい	61
早い	5
遅い	3
その他	0
計	69



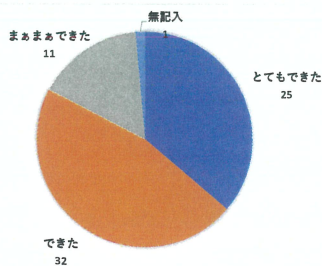
3. 『ワールド・カフェ』では、ご自身の意見を忌憚なく発言することができましたか。

選択肢	人数
とてもできた	15
できた	32
まあまあできた	19
できなかった	2
無記入	1
計	69



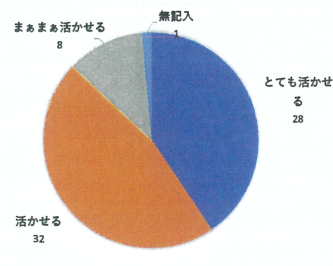
4. 多種職間の相互理解を深めることができました。

選択肢	人数
とてもできた	25
できた	32
まあまあできた	11
できなかった	0
無記入	1
計	69



5. 今後の業務に活かせますか。

選択肢	人数
とても活かせる	28
活かせる	32
まあまあ活かせる	8
活かさない	0
無記入	1
計	69



6. 病院と在宅医療・介護との連携を進めるうえで必要と思われることがありましたらご記入ください。

【医師】

- 会話
- お互いの顔が見える、退院前カンファレンス。患者・家族に在宅医療とは、どういうものかイメージできること
- 多職種の交流は必要
- カンファレンス
- 他施設、多職種の人たちと討論すると、在宅へ向けての連携の理解に非常に有益であった。可能であれば、またワールド・カフェを主催してもいいのでは
- 相互理解

【看護師】

- 病院と在宅を繋げる（退院）カンファレンスが大事
- 情報共有と連携、在宅をみた看護ケア、地域との顔合わせ
- ワールド・カフェなど気軽に話せる場で意見交換できたことが良かった。もっと地域で頑張っている医療者の皆さんと協力して連携できるようカンファレンスを活用したい。
- 独居の方が緊急入院してから数日以内に死亡する事例が増えている。特に高齢者の場合は、元気な時から亡くなった時どうするか、終活をしてもらったほうが良いと感じる。
- 送った患者で、困ったこと気になったことを後日意見をいただきたいと思いました。
- このような多職種との交流により、多くの知識を得ることができるので、また開催していただきたい。
- 患者さん、ご家族の思いを支援するために、協力する仲間を信頼し合う。
- お互いがお互いの業務を知る。在宅での療養環境がイメージできることで必要な支援が具体的になる。
- 薬剤師の介入、多職種協同カンファレンス
- 患者様、ご家族の声を大事にする。
- 顔の見える連携推進するためにも、今回の様な研修会が必要。医師の意見が聞ける場が必要

【薬剤師】

- 薬剤師として在宅へ介入していくというのは、これからだと思うので、多職種ともっと連携をとって頑張っていきたい。
- 薬剤師として多職種とももっと関わりを持ちたいと思いました。

【栄養士】

- 患者さんの情報を共有する。

【リハビリ職】

- 患者本人、家族の希望にどのように答えていくか周りでサポートしていく事が大切
- 情報共有する手段がもっとあればいいと思う。

【訪問診療医】

- 在宅療養生活に不安があれば、在宅関係者（特に訪問看護師）に聞いて、本人・家族も含め十分に納得できれば良いですね。何度でも病院に来ますよ。
- 在宅に帰った時にどんな生活になるのか、病院から説明できるように介護保険について、病院スタッフが理解してほしい。
- 院内での在宅勉強会を
- 病院と在宅医療の連携を切れ目ない仕組みを作ることが大事。そのために病院主治医も在宅医療に関われる仕組みが必要だと思います。

【訪問看護師】

- 退院カンファレンスが必要であり（何回でも足を運びます）一回で不安があれば2回、3回とカンファレンスを行いましょう。
- 外来通院の方で要支援1・2だが、重度の心不全（急性増悪中で入院する）の方もたくさんいると思います。そういう方の支援ももっと力を入れてほしい。
- 関わる方が多い利用者さんこそ、細かい情報共有が必要と感ずます。病院からケアが必要な方をスクリーニングして紹介が多いですが、在宅側からも「こんな方、〇〇な人は訪問看護やヘルパー、訪問診療医が必要そう」と発信していければいいなと思いました。

【訪問薬局・薬剤師】

- このような話せる機会を作っていただければ、良い物が生まれると思います。
- 顔を合わせて話すことが大切だと思います。

【介護支援専門員】

- 関係者間の顔の見える関りがとても大切であり、連携がスムーズにいくことで、利用者さんへも大きなメリットになると思いました。
- お互いの専門分野の向上意識をもって、本人・家族・地域が繋がれるように、それぞれの意見を取り入れる力

- カンファレンスにはケアマネージャーも呼んで欲しいと思います。
- ワールド・カフェの回数を多く
- 各専門職はそれぞれの“力”を発揮していると思った。病院から在宅がよりシームレスに関われる環境が必要と思いました。急性期病院、回復期病院問わず、繋がる関係や環境を作りたいと思いました。
- 病院側と在宅機関での多くのコミュニケーション、課題、情報共有が必要であると考えます。
- 情報共有するツールや時間が必要と思う。

【訪問リハビリ】

- 在宅医療の現場をもっと知ってもらえるとうれしい。訪問診療や訪問看護へ1日だけでもいいので、研修制度などがあればよいと思います。
- 在宅スタッフ（病院経験ある人多い）からの取組みの発信を病院スタッフ（在宅経験ある人少ない）にすることでイメージを伝える。

【その他】

- 今回の「ワールド・カフェ」の様なイベントが必要だと思います（改めて思いました）研修会や親睦会があっても良いと思います。
- このような多職種で話す場が多くあれば、連携も取りやすくなると思います。
- 病院の看護師さんのステーション見学・研修

7. 研修会全体を通してご意見・ご感想、今後取り上げてほしい内容・テーマ等がありましたらお聞かせください。

- もっとフレンドリーに
- この場（ワールド・カフェ）も重要だが、現場実践に1例でも繋げて、次回報告会へ
- 勤務医にやって欲しいこと（書類、申請など）。もっと多職種の方々と話をする機会が多いと良いかと
- 医師の数が多かったのもう少し多職種の人数が多いと良いと思います。
- 今後も参加してネットワークを構築していきたいです。
- 在宅医療の先生方の生の声を聞いて、地域包括ケアシステムは予想以上に進んでいる事が分かった。
- 痛みと薬について
- 意見を述べたりすることはできなかったが、多職種の方と話すことができて良かった。もっと積極的に色々な場に出ていく事が大切だと感じた。
- 今回の様なワールド・カフェに、また参加できればと思います。
- すごく楽しかったです。また参加したいです。本当はもう少し時間が欲しかった…人見知りの為
- ありがとうございました。
- 地域の在宅での情報や様子が分かった。
- もっと意見交換できる時間が欲しかった。本当に多職種の人と話ができ楽しかったです。
- 地域・病病・病診連携
- 各領域の取組みを尊重しつつ、連携が図れるようにしていきたい。急性期から在宅へ、地域への事例を細かく振り返りをして共有してほしい。そのような機会を作ってください。
- 開催が大変だと思いますが、今後もいろいろな研修会を開催してほしいです。
- 帰せてよかった事例や困難事例（退院直前でダメだった..帰る思いのみ聞き取って実行できなかった..)